

10月の安全運転のポイント 平成24年10月号

駐車するときや方向転換をするときなど、運転時にはバックしなければならないことがよくあります。車の後方は運転席から見えない死角も多く、安全確認も不十分になりがちです。そのため駐車車両や工作物などと接触したり、状況によっては後方の歩行者に気づかず衝突するといった事故も発生します。そこで安全にバックするためのポイントをまとめてみました。

乗り込む前に車の後方を確認する

駐車していた車に乗り込んでバックするときは、車に乗り込む前に車の後方を確認しましょう。

特に、幼稚園や学校、公園や病院などがある場所の付近では、車の後方に子どもが隠れているおそれがありますから、乗り込む前に必ず後方の確認をしておきましょう。



ひと呼吸おいて、歩く速度でバックする

急なバックは大変危険です。バックギアに入れてからすぐにバックを開始するのではなく、ひと呼吸おいてからバックしましょう。

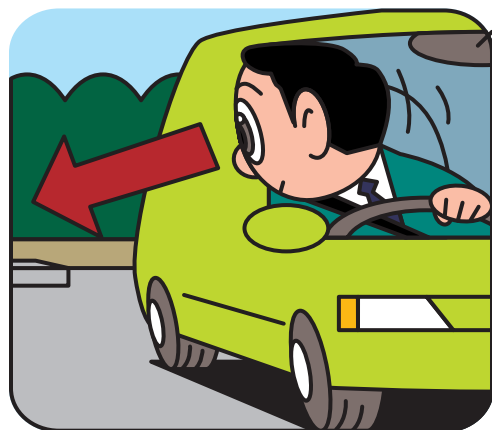
また、バックするときは歩くくらいの速度で徐々に進行しましょう。



ミラーだけに頼らず自分の目で確認する

ミラーでは十分な後方の確認はできませんから、ミラーだけに頼るのは危険です。必ず振り向いて自分の目で後方の確認をするようにしましょう。

また、バックするときには、窓を開けて周囲の音を聞くようにしましょう。それによって接近してくる車や歩行者を早めに察知することができます。



無理なバックはしない

駐車車両の間にバックして駐車するときなどに、このままバックすると接触するかもしれないと感じたときは、決して無理をせずバックを中止して、もう一度やり直しましょう。特に右ハンドル車は、左側の駐車車両との側方間隔が直接自分の目では確認できず、接触する危険性が高まりますから、危ないと感じたときはいったん停止し、下車して状況を確認するくらいの慎重さが必要です。

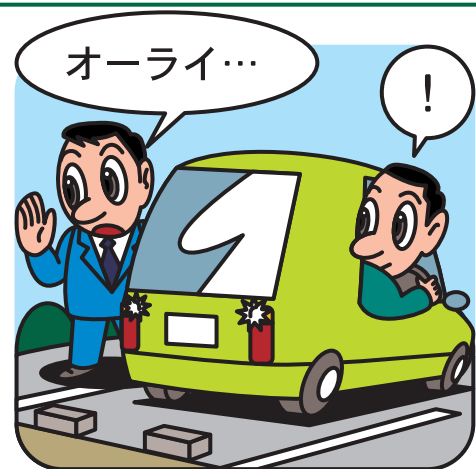
なお、曲がりながらバックする場合、車の前輪は後輪よりも外側にふくらみますから、その点も十分考慮して側方の駐車車両との間隔に注意を払いましょう。



同乗者がいるときは誘導してもらおう

後方には死角が多いので、同乗者がいるときには誘導してもらおうのがよいでしょう。ただし、誘導してもらおう場合でも、それに頼り切るのではなく、自分の目で後方を確認することを忘れないようにしましょう。

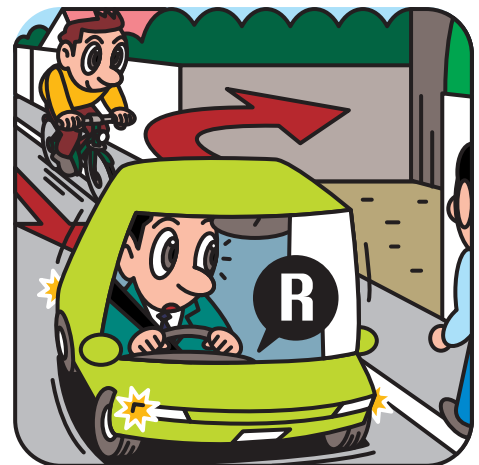
また、バックしてくる車と接触する危険を回避するため、誘導する人には車の進行方向から少し外れた位置に立ってもらおうようにしましょう。



方向転換でバックするときも基本を忘れない

道を間違えて引き返すような場合、やむを得ず方向転換をすることはよくあります。大きなスペースで方向転換できる場合には前進で入り前進で出ることも可能ですが、大半の場合は、入るときか出るときにバックを伴います。そのようなときあわててバックをすると、路側帯や歩道を通行する自転車や歩行者と事故になる危険があります。

方向転換でバックするときも、ひと呼吸おき、歩く速度でバックする、後方（後方の左右も含めて）の安全確認をするといった基本を忘れないようにしましょう。



「ご相談・お申込先」